

《指摘と意見》

外国人労働者の受け入れの長所と短所をそれぞれ2点指摘したい。

長所の1つ目は、日本人の価値観の多様化だ。外国人労働者を通して日本人は世界の文化と価値観に触れる。その経験は長い目で見れば、包容力のある多文化コミュニティーを日本各地に生み出すことにつながるだろう。

長所の2つ目は、彼らが実社会で戦力になっている点だ。介護、農業、建設だけではなく、コンビニ、外食産業、新聞配達などあらゆる分野で、外国人労働者を見かける。最早、社会の必要不可欠の構成員になっている。

短所は、社会保障や教育などの費用と

など実際に労働力不足の厳しいを補ってくれている点だ。、をが日本では、少子高齢化が急速に進んでいる。高齢者人口の急増と生産年齢人口の減少は財政と経済成長の負担になる時代が到来しつつあるのだ。そして、労働力の不足が経済成長の足かせになることが懸念されている。

労働力不足を補おうと、女性や高齢者の活躍推進などの政策がとられている。しかし、流れを変える力はない。そこで、最も有効な対策と考えられているのが、外国人労働者の受け入れだ。ただ、治安の悪化や価値観の対立など、社会のあつれきを理由に、多くの国民が抵抗感を持っている。

しかし、日本の外国人労働者は欧州に見られるような「移民」ではない。彼らはいずれは家族のいる母国に帰る「労働者」だ。また、今日、外国人労働者は、日本のいくつかの地域・産業にとって必要不可欠な存在になりつつあり、その数は米国やドイツと比べて多いとは言えない。むしろ、大きな問題は、日本が外国人労働者を短期的な雇用の調整弁としてきたという側面だ。「技能実習生」の事例では、外国人を農業や建設業など人手不足の現場で低賃金で酷使ししたため、劣悪な労働環境が社会問題になった。

世界の人材獲得競争に出遅れた感のある日本だが、東南アジアの若い労働力を呼び込めれば、挽回のチャンスはある。その際、持続的な成長を実現するためには、良質な外国人材の受け入れのあり方を中長期的な観点から検討する必要がある。

- ①要約なので、全体を少しずつ縮めてエッセンスを残していく、というイメージです。
- ②その際、少子高齢化→労働力不足→外国人労働者の受け入れ→これまでの反省を踏まえ中長期的な受け入れのあり方を考える必要あり。これが一本の流れで、細かな事例の多くはそれを補強するために書かれていることなので、詳しくは書けませんし、その必要もありません。全体の流れを見極め、取捨選択しましょう。
- ③この文章は、段落の他に一行分のスペースがあります。ここが大きな区切りになっているので、要約もその部分に対応させるように分けました。
- ④意味を変えない範囲で接続詞（そして、しかし、むしろ）を使い、文章に流れを作りましょう。そのほうが読みやすいです。また、文章は短いほうが読みやすいです。